
「乳癌に対する FOXM1 を介した細胞老化誘導機構を利用した治療戦略の構築」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、針生検もしくは手術で採取された乳房の組織やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2007年4月1日から2023年3月31日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、乳癌の診療を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

FOXM1 は多くの癌に発現していて、癌の増殖・転移に影響を与えることが報告されています。しかし、乳癌においては詳細が明らかにされていません。FOXM1 が乳癌の生物学的特徴や臨床成績に与える影響を解析し、今後の乳癌診療に生かします。

3. 研究期間

病院長の許可後～2028年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年1月6日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

年齢、閉経状況、パフォーマンス ステータス、既往症、合併症、家族歴、身長、体重、カルテ番号、癌の病理結果、病理検体番号、画像検査結果、治療、診療経過、治療成績、FOXM1 の発現状況を用いて研究をおこないます。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である大崎 昭彦が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

乳癌と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 大崎昭彦（研究責任者）

佐伯俊昭，長谷部孝裕，石黒洋，松浦一生，大原正裕，浅野彩，島田浩子，貫井麻未，藤本章博，一瀬友希，山口慧，黒澤多英子，中目絢子，朝井香子，榊原彩花，病理診断科 安田政実，ゲノム医療科 濱口哲弥，ゲノム医療科 平崎正孝

4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学国際医療センター】 病院長 佐伯俊昭

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 大原正裕

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4746（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：乳癌に対する FOXM1 を介した細胞老化誘導癌治療の開発

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 大崎 昭彦